

1 ながいも産地の維持に向けた若手生産者の育成

【概要】

- 「三八地域ながいも担い手育成塾研修会」では、J Aゆうき青森管内（東北町）において「ながいもの達人」等の種づくりや輪作体系、施肥技術を学ぶ研修により、技術改善に前向きな姿勢がみられた。また、「チェックシート」の活用により個別の生産技術の状況確認と改善を促した。

【背景・課題】

- ながいも産地を維持していくためには、担い手となる若手生産者の育成が重要である。
- 令和2年度に若手研究会会員を対象に行ったアンケート調査では、栽培面の課題として品質の向上、収量の安定化が挙げられており、基本技術の徹底と種苗更新の意識付け、個々の生産技術のレベルアップが不可欠である。

【普及指導活動の内容】

- 第1回研修会は10月15日にJ Aゆうき青森管内の東北町ながいも現地ほ場において、ながいも部会長及び「ながいもの達人」の種いもづくり、緑肥作物を組み合わせた輪作体系、施肥技術を研修した。
- 第2回研修会は2月18日に八戸合同庁舎において、令和6年産を振り返り、令和7年産の高品質多収に向けて座学研修と意見交換を行った。

【成果】

- 第1回研修では、7名が参加し、堆肥や追肥方法、緑肥作物の種類などについて積極的に質問して理解を深めていた。
- 三八版簡易生産技術チェックシートを配付して記入してもらったところ、排水対策や優良種苗の導入、適期作業が課題として挙げられた。
- 第2回研修では、21名が参加し、追肥に関する質問が出され、生育を見て1回目の追肥が遅くならないようにすることや肥料を切らないことが重要であることが理解された。

【対象名】

八戸農協野菜総合部会
ながいも専門部
ながいも若手研究会（48名）



甲地優志部会長（左から2人目）
ほ場での研修（10月15日、東北町）



「ながいもの達人」岡山 粕男氏
（写真右）ほ場での研修（同上）



第2回研修（2月18日、八戸合庁ほか）

2 にんにく栽培における労働力不足への対応と種苗増殖技術の徹底

【概要】

- にんにくの生産性改善に向けた種苗増殖専用ほ場の設置や管理技術について、研修会を開催し、生産者の理解を深めた。また、生産上の課題である労働力不足に対応するため、省力化機械の実演会を開催し、中山間地域に適した技術に高い関心を集めた。

【背景・課題】

- 現状、「収穫」と「植付け」の労働力不足が深刻な課題である。
- 単収・品質改善の為、種苗更新及び増殖技術の向上が課題となっている。

【普及指導活動の内容】

- 若手生産者を対象に、種苗増殖専用ほ場の設置及び管理技術等に関する「三八地域にんにく種苗増殖技術研修会」を開催した。
- 三八版種苗増殖チェックシートを作成し、研修会や現地巡回で指導した。
- 労働力不足解消と中山間地が多い三八管内の実情も考慮した省力機械実演会を開催した。

【成果】

- 種苗増殖技術研修会を2回開催し、第1回目は、5月21日に野菜研究所において、31名が参加し、ウイルス株の見分け方や媒介虫防除など管理のポイントについて理解を深めた。また、第2回目は、7月25日に住化テクノサービス(株)において、21名が参加し、優良種苗の継続的な導入や、栽培管理の徹底、種苗の選別方法などについて理解された。
- 種苗増殖専用ほ場の設置者増加に向け、三八版チェックシートを作成、継続的指導に活用した。
- 省力作業機械実演会を9月5日に開催し、22名が参加した。ドローンによる薬剤散布の実演やコンベア付きハーベスタの見学から、省力化の参考にしていた。
- 農福連携による福祉事業所への草取りや種こぼしなどの作業委託を利用した生産者が5件あり、利用者は人手を要する作業を委託したことで作業の効率化に繋がったと好評であった。

【対象名】

八戸農協野菜総合部会にんにく専門部
五戸支部西部(157名)
田子支部(126名)



乾燥技術勉強会 (7月4日、田子町)



種苗増殖研修会
住化テクノサービス(7月25日、三沢市)



省力機械実演会 (9月5日、南部町)

3 高品質りんごの安定生産に向けた交信かく乱剤の普及拡大

【概要】

- りんごの害虫対策が困難になることが想定されている中で、県では交信かく乱剤を防除暦に採用したが、現場での設置率が低いことから、JA八戸と協力して効果や設置方法等についての調査、周知を行った。

【背景・課題】

- 夏場の高温の影響や一部殺虫剤の登録更新が行われないなど、今後、殺虫剤のみでの害虫防除が困難になることが予想される。
- 交信かく乱剤を県の防除暦に採用したが、設置の必要性や、効果、正しい設置方法が周知されていない。

【普及指導活動の内容】

- 交信かく乱剤の普及に向けた必要性を周知するために、講習会を実施し、フェロモントラップを三戸町梅内に設置して発消長を調査した。
- 交信かく乱剤の普及に向けた使用方法を周知するために、交信かく乱剤展示ほを設置し、展示ほを活用して設置実演会を行った。

【成果】

- 4月から5月にかけて講習会を行い、病虫害の適正防除と交信かく乱剤の必要性について説明した結果、概ね理解された。
- 発消長調査を農協と一緒にやり、情報を共有し、調査結果を冬期に行われる防除暦検討会等で説明し、効果について周知を行った。
- 交信かく乱剤設置展示ほにおいて、設置実演会を実施し、参加者に実際に交信かく乱剤を設置してもらった。今まで使ったことのない参加者からは、実施前では10a当たり100本の設置本数が手間だとの意見もあったが、実際に付けてみると思ったよりも簡単だとの意見もあった。

【対象名】

管内共防地区連（39組織）
管内りんご生産者



交信かく乱剤の設置実演会
（5月15日、三戸町）



実演会後実際に設置する実習（同上）



フェロモントラップに誘引
されたモモシンクイガ（6月11日）

4 三八型農業経営改善モデルの創出

【概要】

- 地域ぐるみで、農業経営力向上に向けた改善活動を伴走支援し、管内の地域経営体等の所得向上を図るため、様々な経営改善を通じた経営力の強化により、課題解決につながるモデルを実証した。

【背景・課題】

- 三八地域の経営体が、今後収益と所得の向上を図り、持続的に発展していくためには、規模拡大に必要な労働力の確保等による効率的な営農が重要となっている。
- 市町村と連携して情報共有を図りながら、支援体制を構築することで、経営課題の解決に取り組む経営体を確保、育成する必要がある。

【普及指導活動の内容】

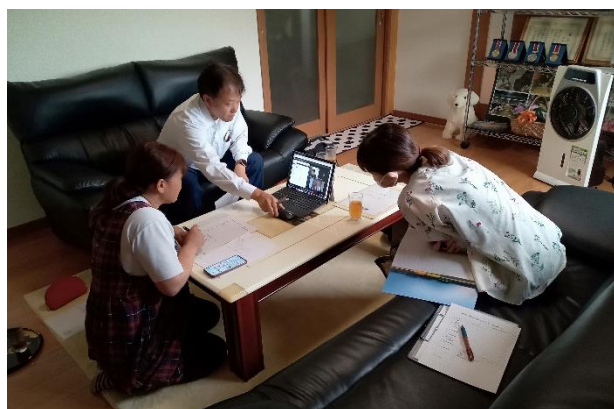
- 管内の指導農業士会、ViC・ウーマンの会、4Hクラブ、市町村、農協等を参集し、経営改善モデルの取組手法に関する情報共有等を行い、その取組を支援する機運醸成を図った。
- 副業人材活用モデル、データ活用モデル、都市農村交流推進モデルの取組について、研修会を開催して農業者に周知した。
- 都市農村交流推進モデル、副業人材活用モデル、データ活用モデル、農業者間の連携強化モデルについて、管内の経営体に委託するとともに伴走支援を行った。

【成果】

- 11経営体が、延べ20名の旅行者を受け入れて、労働力確保に取り組んだ。また、積極的に旅行者と交流したことで「青森の良さ」の認知につながり、リピートする旅行者もいた。
- 1経営体が副業人材3名を雇用し、新製品開発に取り組んだ結果、4品を試作した。
- なんぶピクニックマルシェ実行委員会により「なんぶピクニックマルシェ」を3回開催し、子育て世代の消費者との交流を深め、飲食店と連携してレシピを作成する等、売上の増加に向けて取り組んだ。

【対象名】

地域経営体（129経営体）、
地域経営体候補
（文中ではどちらも経営体と表記）



旅行者募集サイト作成の様子
（8月29日）



なんぶピクニックマルシェ（10月26日）



副業人材を活用した試作品の打合せ
（2月5日）